JAFスポーツWEB

2019JAF中部ジムカーナ選手権第8戦　JMRC中部ジムカーナ選手権第8戦　JMRC全国オールスター選抜第8戦
M-I MASC HIGHSPEED GYMKHANA 2019［JAF公認No.2019-2119］

開催日：9月22日　開催場所：幸田サーキットYRP桐山　格式：準国内　主催：M-I［クラブ登録No.加盟22049］、MASC［クラブ登録No.加盟23011］

フォト＆レポート／友田宏之

参加15台と最大の激戦区となったSA2クラスは、2WD勢では唯一の1分24秒台を叩き出したインテグラマイスターの榎本利弘選手が快勝した。

中部地区戦最終戦が幸田で開催。タイトル争いも遂に決着！

今シーズンの最終戦となるJAF中部ジムカーナ選手権第8戦が、愛知県の幸田サーキットYRP桐山で開催された。中部地区戦は約3年ぶりとなる幸田には今季最多の94台がエントリー。台風17号の接近で心配された天候も若干の降雨はあったが、タイムに影響を及ぼすほどではなく、第1、第2ヒート共にドライ路面で争われた。

コースレイアウトは、前半はAコーナーからヘアピンエリアを使ったコース区間。中盤以降はバックストレートから3コーナー、2コーナーにかけてパイロンセクションも織り交ぜた高速&テクニカル区間と、幸田サーキットをフルに使った走り応えのある設定となった。そして今シーズンは例年にない混戦模様で、S1500、PN2、SA4、SCの4クラスのチャンピオン争いが、この最終戦まで持ち越された。

小川国大選手と山崎哲也選手のチャンピオン争いとなったS1500クラス。シーズンの前半4戦が不成立だったため、後半4戦でのポイント争奪戦となった。優勝が絶対条件の山崎選手に対して2位でもチャンピオンが決まる小川選手。

その小川選手は第1ヒートからトップに立ち、第2ヒートでも自己タイムを詰め、優勝でチャンピオンを決めた。「2本めは少し失敗したところもありますが、ほぼ想定していたタイムが出たので、良しとしましょう」という小川選手は今季、前半4戦のポイントで、PN1でもシリーズ3位に入る成績も収めた。

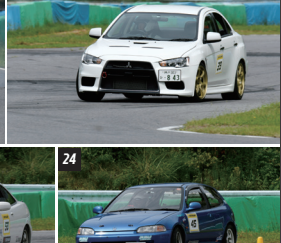
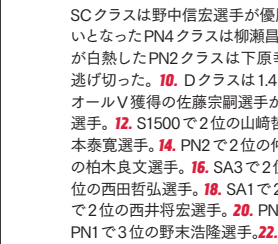
PN2クラスは、ポイントリーダーの辺城拓郎選手を下原幸登選手が追う展開。何とか逃げ切りたい辺城選手だったが、トップで折り返したのは下原選手。第2ヒートもタイムアップを果たした辺城選手だったが下原選手のタイムには及ばず4位止まり。最終走者の下原選手はヘッドライト点灯のウィニングランを見せた。

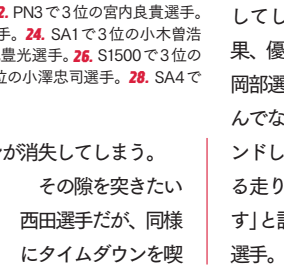
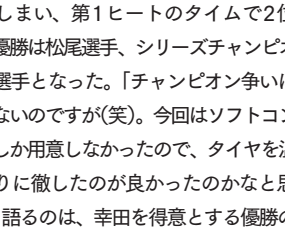
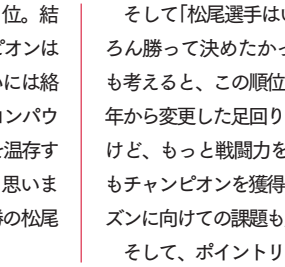
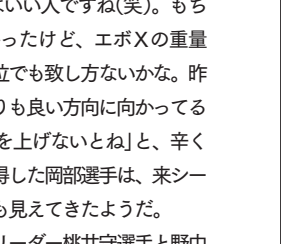
「今シーズンはタイヤに関して色々悩みました。メーカーを変えたり、フロントの足回りも見直して前回のキョウセイで良くなってきました。まだ改善の余地はありますが、今回もしっかりとクルマが前に出て1本目でタイムを出せたのが良かったと思います」と語る下原選手が最終戦、優勝でチャンピオンを決めた。

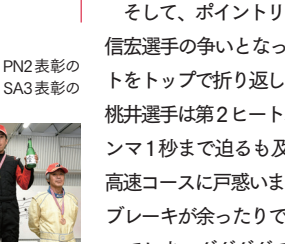
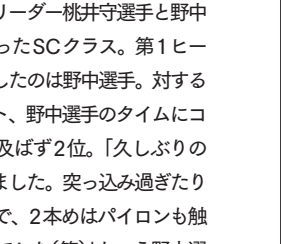
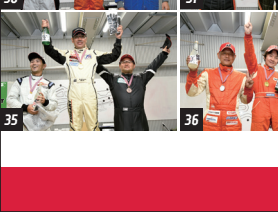
SA4クラスは、岡部隆市選手と西田哲弘選手のチャンピオン争い。3位以上でチャンピオンが決まる岡部選手に対し、西田選手は優勝が絶対条件。その第1ヒート、暫定トップに立ったのは西田選手。岡部選手は4位と出遅れる。

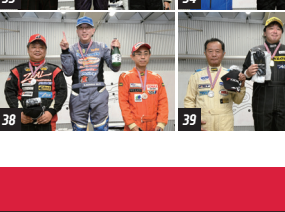
このままの順位でいけば西田選手のシリーズ逆転チャンピオンとなるが、しかし第2ヒート、戦況を変えたのは第1ヒート6位の松尾勝規選手。自己タイムを1秒以上更新し、トップに立つ。これで仕切り直しとなったチャンピオン争い。暫定5位となった岡部選手はなんとか順位を上げたいところだがタイムダウンで5位

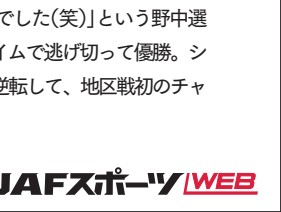
*1.*参加12台と激戦区となったPN1クラスは全日本ドラ森嶋昭時選手が貫禄勝ち。*2.*BRZが1-2を飾ったPN3は磯村良二選手が優勝。*3.*S1500は小川国大選手が2本ともベストを叩き出して快勝。





4. SA1クラスは断トツのベストを叩き出した島田昌典選手が優勝した。**5.** ヒート1のタイムで勝敗が決したSA3クラスは安部洋一選手が優勝。**6.** ヒート1の5番手から逆転優勝を決めたSA4クラスの松尾勝規選手。**7.** 全日本ドラ対決となったSCクラスは野中信宏選手が優勝。**8.** 0.013秒差と僅差の戦いとなったPN4クラスは柳瀬昌樹選手が優勝。**9.** トップ争いが白熱したPN2クラスは下原幸登選手が1本目のタイムで逃げ切った。**10.** Dクラスは1.4秒のタイムアップでオーバーオールV獲得の佐藤宗嗣選手が優勝。**11.** SCで2位の桃井守選手。**12.** S1500で2位の山崎哲也選手。**13.** PN1で2位の山本泰寛選手。**14.** PN2で2位の仲川雅樹選手。**15.** PN3で2位の柏木良文選手。**16.** SA3で2位の奥浩明選手。**17.** SA4で2位の西田哲弘選手。**18.** SA1で2位の近藤瑛貴選手。**19.** SA2で2位の西井将宏選手。**20.** PN4で2位の杉本季優選手。**21.** PN1で3位の野末浩隆選手。**22.** PN3で3位の宮内良貴選手。**23.** SA2で3位の大石博之選手。**24.** SA1で3位の小木曽浩之選手。**25.** Dで2位の五十嵐豊光選手。**26.** S1500で3位の緒方崇之選手。**27.** SA3で3位の小澤忠司選手。**28.** SA4で3位の堀隆成選手。

確定。自力チャンピオンが消失してしまう。

その隙を突きたい西田選手だが、同様にタイムダウンを喫してしまい、第1ヒートのタイムで2位。結果、優勝は松尾選手、シリーズチャンピオンは岡部選手となった。「チャンピオン争いには絡んでないのですが(笑)。今回はソフトコンパウンドしか用意しなかったので、タイヤを温存する走りに徹したのが良かったのかなと思います」と語るのは、幸田を得意とする優勝の松尾選手。

そして「松尾選手はいい人ですね(笑)。もちろん勝って決めたかったけど、エボXの重量も考えると、この順位でも致し方ないかな。昨年から変更した足回りも良い方向に向かってるけど、もっと戦闘力を上げないとね」と、辛くもチャンピオンを獲得した岡部選手は、来シーズンに向けての課題も見えてきたようだ。

そして、ポイントリーダー桃井守選手と野中信宏選手の争いとなったSCクラス。第1ヒートをトップで折り返したのは野中選手。対する桃井選手は第2ヒート、野中選手のタイムにコンマ1秒まで迫るも及ばず2位。「久しぶりの高速コースに戸惑いました。突っ込み過ぎたりブレーキが余ったりで、2本めはパイロンも触ってしまいグダグダでした(笑)」という野中選手は第1ヒートのタイムで逃げ切って優勝。シリーズポイントでも逆転して、地区戦初のチャンピオンを獲得した。

29. SA2表彰の皆さん。**30.** S1500クラス表彰の皆さん。**31.** PN1表彰の皆さん。**32.** PN2表彰の皆さん。**33.** PN3表彰の皆さん。**34.** PN4表彰の皆さん。**35.** SA1表彰の皆さん。**36.** SA3表彰の皆さん。**37.** SA4表彰の皆さん。**38.** SC表彰の皆さん。**39.** D表彰の皆さん。